

令和3年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 東京都立八王子盲学校 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(高等部主任兼務)=事務局長、副校長、主幹教諭1名 計3名
- (3) 内部委員の構成
副校長、経営企画室長、主幹教諭7名(教務主任兼務、生活指導主任兼務、幼小小学部主任兼務、中学部主任兼務、高等部主任兼務、普通科主任兼務)、進路指導主任 計10名
- (4) 協議委員の構成
保護者代表2名、地域住民代表1名、学識経験者1名、視覚障害者施設代表1名、医療関係者1名、八王子市教育委員会代表1名、福祉団体関係者2名、雇用促進団体代表1名 計10名

2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時、出席者、内容
第1回 令和3年6月24日(木) 内部委員10名、協議委員5名
委嘱状交付、本校の現状と課題等の説明、学校評価アンケート原案の確認
第2回 令和3年10月29日(金) 内部委員10名、協議委員7名
学校評価アンケート結果の確認、課題に対する検討部署の確認
第3回 令和4年2月18日(金) 内部委員7名、協議委員3名
課題取組状況の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容
第1回 令和3年6月24日(木) 内部委員3名、評価委員2名
学校評価の基本方針確認、昨年度の学校評価報告、学校評価アンケート原案の検討
第2回 令和3年10月29日(金) 内部委員3名、評価委員2名
学校評価アンケート結果の確認、課題検討と検討部署の確認
第3回 令和4年2月18日(金) 内部委員2名、評価委員2名
課題取組状況の確認、本校への提言

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・7月 中学部・高等部生徒 対象:35人 回収:32人 回収率:91.4%
 - ・7月 保護者 対象:39人 回収:38人 回収率:95.0%
 - ・7月 地域住民 対象:40人 回収:12人 回収率:30.0%
 - ・7月 教職員 対象:88人 回収:83人 回収率:94.3%
- (3) 主な評価項目
「学校経営」、「学習指導」、「生活指導・安全教育」、「進路指導」、「外部対応・啓発活動」
- (4) 評価結果の概要
 - ①学校経営(7項目)
 - ・7項目中5項目で、保護者の肯定的評価が80%以上だった。
 - ・保護者の肯定的評価が80%以下だった項目は「教職員のライフ・ワーク・バランスの取組」で、「わからない」の回答が23.7%あり、依然として保護者には回答しにくい質問となっている。
 - ②学習指導(4項目)
 - ・4項目中1項目で、保護者の肯定的評価が80%以上だった。
 - ・保護者の肯定的評価が80%以下だった項目は「学部間の連携・継続した指導」「オリ・パラ教育の取組」「寄宿舎と学校・家庭との連携」で、とくに「学部間の連携」については教職員の評価も低い。
 - ③生活指導・安全教育、進路指導(5項目)
 - ・5項目中2項目で、保護者の肯定的評価が80%以上だった。
 - ・保護者の肯定的評価が80%以下だった項目は「事故防止等に配慮した環境整備」「いじめ・自殺未然防止の取組」「個に応じた進路指導の充実」で、その要因として校舎の老朽化や保護者への周知不足が挙げられる。

④外部対応・啓発活動（3項目）

- ・ 3項目中2項目で、保護者の肯定的評価が80%以上だった。
- ・ 保護者の肯定的評価が80%以下だった項目は「ホームページの掲載内容」で、校務多忙のため保護者のニーズに十分応えられていないことが課題として明らかになった。

(5) 評価結果の分析・考察

昨年度までの評価方法に加え、加重平均を用いて分析を行った。特に加重平均が1を下回った4項目（事故防止等に配慮した環境整備、個に応じた進路指導の充実、ホームページの掲載内容、教職員のライフ・ワーク・バランス）に焦点を絞って分析・考察を進めた。

4 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 事故防止等に配慮した環境整備について

校内・通学路を再点検し危険箇所があれば除去する、校内のルールを定期的に周知する等して、事故を未然に防ぐ。

(2) 個に応じた進路指導の充実について

保護者が見通しをもてるような進路指導になっているかどうか業務内容を検証する。

(3) ホームページの掲載内容について

保護者のニーズにあった掲載内容になっているか検証する。

(4) 教職員のライフ・ワーク・バランスについて

保護者が答えやすい質問内容になっているか検証する。

教職員の「仕事の偏り」「業務のスリム化」「会議の多さ」等、優先度の高くないものと高いものを峻別することは大切である。業務量は減らしていかないと減るものではない。

5 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合（協議委員人数10人）

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
5	2	1	0	0	1	1

6 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、協議委員の参加はなかった。